逗子の景観まちづくり
瓦版
第八十一号

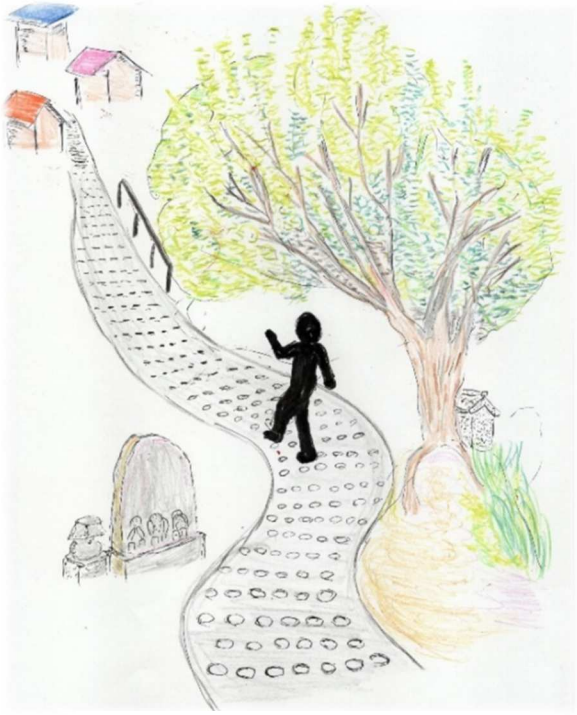
二〇二三年十月十六日　次号は一月発行予定
編集　逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力　ＮＰＯ法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集　逗子の景観スケッチや六百五十字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九－八六八六
逗子市逗子五丁目二番十六号
「逗子市まちづくり景観課　瓦版係」
電話　〇四六－八七三－一一一一
ファックス　〇四六－八七三－四五二〇
machi@city.zushi.lg.jp

『頼朝になりきって茅の箸で蕎麦を食らう話』

久木新道のバス停そばのセブンイレブンの脇から亀ヶ岡団地に上がってゆく急坂がある。傾斜が30度近くもあるこの急坂を登らないと私は家に帰れない。だからただの帰り道がちょっとしたトレーニングになってしまう。

ある時、昭和2年発行の逗子全図を見る機会があった。

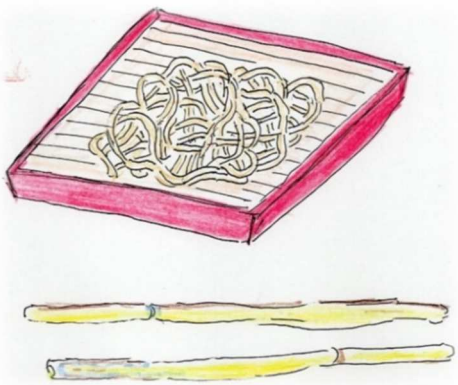


「住宅地にとけこむ古道の急坂」

その地図に、今は亀団となっている丘に「新箸宮」という神社が記されていた。現在の亀団にはそのような神社があった痕跡は全くない。ネットで調べてみると読み方は「にいばしぐう」。道に迷った頼朝にこの地に住む従者が食事を差し上げようとしたが箸すらない貧しさであった。そこで庭の茅の茎を切って箸として差し出したところ、頼朝は深く感謝し、「新箸宮」と呼ばれる神社を建てたという。頼朝が茅の箸で食したのが1177年7月26日だったので、昭和初期頃まで逗子一帯では、7月26日に蕎麦を打ち、新しい茅の箸を添えて神棚に供える習わしがあったらしい。

急坂の道は名越の切通しにつながり、鎌倉へ抜ける古道だった。今日もいつものように家に戻ろうと坂を登る途中、石の祠がある大きな木の根元の茂みに茅が生えているのが目に入った。ふとこれで箸をつくって蕎麦を食べてみようと思い立った。昭和2年の地図で新箸宮があった場所と今の地図とを重ねてみるとわが家のある場所とほぼ重なる。ということは今、私が食べているこの場所に頼朝がいて茅の箸を使っていたかもしれない。そんなことを妄想しながら頼朝になりきって蕎麦を食べると一段と蕎麦は美味しかった。

文・絵　市川　力



「急坂脇に生えていた茅を箸にする」

―逗子文化の会主催のまちあるき動画が完成―

逗子の別荘邸園を散策し旧藤瀬・脇村邸で脇村義太郎を偲ぶ」の様子が動画になりました。旧藤瀬・脇村邸（逗子市登録有形文化財）の内部もご覧いただけます。講師は逗子文化の会会員の三浦恒義氏、映像制作は 高野拓海氏です。

■逗子文化の会「逗子文化の会主催のまちあるき動画」URL（ＱＲコード有）

https://www.youtube.com/watch?v=m3d9_h3p6g8&authuser=0

※2022 年度湘南邸園文化祭参加イベント

《旧脇村邸内部　１日限定公開》
12 月 17 日（日）（予定）
※まちづくり景観課主催まちあるきイベントも同日開催予定です。詳細は「広報ずし 12 月号」をご覧下さい。

― 逗子葉山高校特別授業レポート 『目指せ建築家！模型をつくろう』―

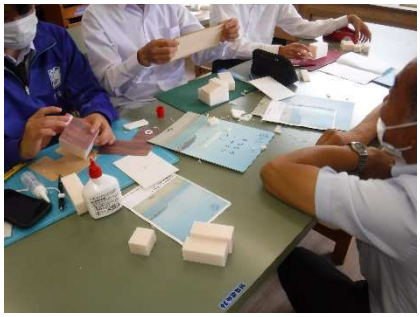
紫陽花が咲く梅雨の晴れ間。県立逗子高校と県立逗葉学校が再編統合され開校した、逗子葉山高校へ続く坂道を、車の荷室に工作道具を詰め込んで登ってゆく。待っているのは、桜の花が咲くころからこの学校にから通い始めた１年生の皆さん。

まちづくり景観課と景観サポーターが「目指せ建築家！模型をつくろう」をテーマに、同校の「総合的な探究の時間」で講師を務めるためだ。

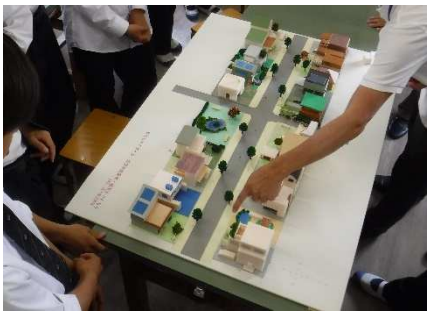
道路や公園を描いたパネル上に、生徒一人ひとりが家の模型を作成しこれを配置することにより模型のまちなみができあがり、この過程で、景観や建築に関することを考えてもらうのである。

「公園の横は図書館がいいね」「屋根の色はどうしよう」「ここに木があると駐車場は無理かな」生徒の皆さんは、まちなみ模型の全体を遠目で見たり、家の模型の細部に目をやったりと、理想的なまちなみづくりに、真剣な顔をしながらの２日間。出来上がれば、そこには若さあふれるまちなみがある。今日は模型を作ったが、あと 20 年もすれば本物の家を建て、そのまちなみの中での暮らしがあるのだろう。それまでは私たちの世代が、「この逗子の美しいまちなみ景観を守る役割」がある。葉桜の間から、初夏の陽射しが差し込む帰り道に浮かぶフレーズである。

（まちづくり景観課　坂本）



建築家指導のもと模型制作中！



模型完成！まちなみについて考えよう

展示風景：市民交流センターフェア（９月）

―逗子の庚申塔を巡って―

桜山の宗泰寺にも魅力的な石像仏が境内にいくつかみられる。その中の１つで今回スケッチさせて頂いた庚申塔は、境内入り口階段右側の２基並ぶ右側で、年は不明だが３月吉日と明記されている。

日や月がうすく明確にはわからないが描かれ、青面金剛が中央に立ち、足もとには大きめの石の様な邪鬼が,踏まれている。庚申塔の持ち物や青面金剛は、かなり風化しているためはっきりと目鼻は見えていない。三猿の向きが珍しく、右端には横向きの姿の言わざる。中央は正面向きで聞かざる。左端も正面向きで見ざるがユーモラスに並ぶ。立派な笠付型に守られ、高さ 72cm、巾 30cm の大きさ。

他には、「八郎兵衛」筆頭に 24 名分の名が記されている。皆が力を合わせてこの庚申塔を作ったことがわかるので、団結力と願いの強さを感じる。　　（文・絵　　田中　慶美）

宗泰寺
逗子市桜山 7-7-1

瓦版編集担当　逗子市環境都市部まちづくり景観課　まちを楽しくするFacebook 逗子の景観まちづくり いいね！してね！　**逗子市 HP やフェイスブックも見てね！**

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎二階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。